

2005 年度 電磁気学 I 期末試験問題 (2006/2/6)

1. 静電場は、ガウスの法則  $\nabla \cdot \mathbf{E}(\mathbf{r}) = \rho(\mathbf{r})/\varepsilon_0$  (と  $\nabla \times \mathbf{E}(\mathbf{r}) = 0$ ) で決定される。ガウスの定理を用いて、このガウスの法則を積分形に書き換えよ。
2. 半径  $a$  の一様な球状電荷分布を考える。球の中心からの距離を  $r$  とすれば、電荷密度は、

$$\rho(r) = \begin{cases} \rho (> 0, \text{定数}), & r \leq a, \\ 0, & r > a, \end{cases}$$

で与えられる。

- (a) この電荷分布が作る電場はどちら向きか。
  - (b) 電場の大きさを  $r$  の関数として求めよ。
  - (c) 静電ポテンシャル  $\phi$  を  $r$  の関数として求めよ。ただし、 $\phi(r)$  は連続で、 $\phi(\infty) = 0$  とする。
  - (d) 電場のエネルギーを求めよ。
3. 定常電流の作る磁場 (磁束密度) はアンペールの法則  $\nabla \times \mathbf{B}(\mathbf{r}) = \mu_0 \mathbf{i}(\mathbf{r})$  (および  $\nabla \cdot \mathbf{B}(\mathbf{r}) = 0$ ) で決定される。ストークスの定理を用いて、このアンペールの法則を積分形に書き換えよ。
  4.  $z$  軸を中心軸とする無限に長い半径  $a$  の円柱の内部を、 $z$  軸の正の方向に電流が一様に流れている。 $z$  軸からの距離を  $R$  とすれば、電流密度は、

$$\mathbf{i}(R) = \begin{cases} i \hat{z} (i > 0, \text{定数}), & R \leq a, \\ 0, & R > a, \end{cases}$$

で与えられる。

- (a) この電流分布が作る磁場の向きを図示せよ。
  - (b) 磁場の大きさを  $R$  の関数として求めよ。
5. (真空中の) マクスウェルの方程式

$$\nabla \cdot \mathbf{E}(\mathbf{r}, t) = \frac{\rho(\mathbf{r}, t)}{\varepsilon_0}, \quad (1)$$

$$\nabla \cdot \mathbf{B}(\mathbf{r}, t) = 0, \quad (2)$$

$$\nabla \times \mathbf{E}(\mathbf{r}, t) = -\frac{\partial}{\partial t} \mathbf{B}(\mathbf{r}, t), \quad (3)$$

$$\nabla \times \mathbf{B}(\mathbf{r}, t) = \mu_0 \mathbf{i}(\mathbf{r}, t) + \mu_0 \varepsilon_0 \frac{\partial}{\partial t} \mathbf{E}(\mathbf{r}, t). \quad (4)$$

について以下の問いに答えよ。

- (a) 式 (1) と比較して、式 (2) は何を表しているのか説明せよ。
- (b) 変位電流とはどの式のどの項のことか。
- (c) 変位電流が必要な理由を 1 つ説明せよ。